

# 米原歴史街道

米原市の歴史・文化財を歩く ⑩

## カイダレと持送り

東草野の文化的景観⑤

### 重要文化的景観に選定決定

国内39件目の重要文化的景観に選定が決まった「東草野の山村景観」。これからは、冬本番です。長く厳しい季節の到来ですが、縄文時代中期の約四〇〇〇年前から、東草野地域の歴史とくらしは、雪を克服し、雪と共生しながら、雪を利用し工夫して続いてきました。甲津原の麻織りや曲谷の石臼作り、甲賀の竹刀作りなどの個性的な冬の副業を発展させました。また、甲賀などの主産業であった炭は、冬の七曲峠を越えて、鍛冶屋（長浜市）の間屋に出荷されました。雪に閉ざされたように見える山村は、内ではさまざまな生産活動が行われ、外に向かつては、何本もの峠道を利用した流通活動が活発に行われていたのです。東草野の文化的景観は、「峠を介した流通・往来によって発達した景観地で、カイダレなど独特の設備を備えた民家形態や、集落ごとに発達した副業など、豪雪に対応した生活・生業・水利用によって形成された文化的景観」なのです。

### カイダレと持送り

東草野の文化的景観シリーズ。今回は、民家にみられる独特の設備、カイダレと持送りについて紹介します。東草野では、妻入りでトタンが被せられている茅葺きの民家が多く、甲津原では二二棟を数え、集落景観を特徴



甲津原のカイダレ

づけます。さらに、甲津原、甲賀、吉槻では、入り口を南に設ける家屋が多く、日当たりを良くして、降雪時に入り口を確保するための知恵だと考えられます。

カイダレは民家の入口に半間から一間の横木を出し、その先に水平に桁を乗せて、長い庇にしたもので、積雪時に入り口を確保するための空間です。収穫期には天日干しにした農作物を急な降雨から退避させるための空間でもあります。積雪の多い最奥の甲津原にも多く、曲谷や吉槻でも見られます。隣接する岐阜県春日村（現揖斐川町）から大工を呼んできて建てられたと伝えられており、峠を越えた交流があったことを裏付けます。冬場になると雪囲いを庇にむけて立てかけ、冬季の作業場、薪や割木置き場などの空間にな

### 吉槻の持送り



### 甲津原の持送り



ります。持送りは、軒下において戸口前などの大庇を受けるためのもので、東草野に見られるのは民家の軒下や、蔵の庇につくもので、様々な意匠の持送りが見られます。民家によっては一棟に数枚の持送りが付くものもあります。滋賀県の平野部にはわずかしき見られず、東草野の四集落に持送りが多いのは雪が多いためと考えられます。その意匠には植物文様、自然現象文様（雲や波）、無文様などがあり、透かしがあるものもあります。比較的多い唐草模様は、生命力が強く途切れることなく蔓を伸ばしていくことから「繁栄・長寿」などの意味があり、縁起の良い文様といわれています。

（歴史文化財保護課）